

# 令和3年度 学校自己評価システムシート（県立春日部工業高等学校）

目指す学校像	あらゆる教育活動をとおして「技を磨き心を育む」教育の定着を図り、各分野のスペシャリスト育成を目指す学校
--------	---

重点目標	1 確実な学力定着と専門的な知識・技術を習得し、進路実現を行う。 2 生徒指導、学校行事、部活動をとおして、生徒一人一人の心を育む。 3 地域の教育資源の活用と積極的な情報発信を行い、開かれた学校づくりを行う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						学校関係者評価	
年度目標				年度評価（2月1日現在）		実施日 令和4年3月18日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>【現状】</b> 進路実現に向け、目的意識を持って学校生活を送っている生徒が多い。 <b>【課題】</b> 生徒の学習意欲を高め、専門知識・技術の向上を踏まえた学力向上への取り組みと確かな職業観の育成が必要である。	令和4年度からの新学習指導要領実施体制を整える。  資格取得等への支援体制を継続し、生徒の進路希望を達成する。	①「分かる授業」を目指し、ICT等を適切に活用した授業改善を図る。 ②新学習指導要領の円滑な導入に向けた研修会を実施する。 ③課題研究を中心に、自らが課題を発見し解決する活動を繰り返し体験させる。	①「授業が理解できた」という生徒の割合80% ②校内研修会の実施（9月） ③課題研究の取り組みの工夫	①ICT活用の授業展開が増え、「授業が理解できた」という生徒の割合が77%で概ね達成した。 ②教育課程委員会にて観点別評価に向けた研修会を10月に実施した。 ③機械科2学年へ課題研究会見学会を実施し、各科で発表会を行った。	A	「あなたは一日にどれくらい勉強しますか」の回答で「しない」が57%であった。自学自習の習慣化に向け意識啓発を図る必要がある。基礎力診断テストが年2回実施になるため、授業改善や基礎学力定着につなげたい。
2	<b>【現状】</b> 挨拶、身だしなみ、清掃など、生徒の基本的な生活習慣は概ね良好である。部活動や生徒会活動に主体的に取り組む生徒が多い。 <b>【課題】</b> 多様化する生徒に組織的な生徒指導を行い、学校行事や部活動をさらに充実させる必要がある。	生徒の規範意識と自立する心を向上させ、生徒一人一人の充実感を高める。	①挨拶の励行、スマートフォン等のルール改善に組織的に取り組むとともに、心を育むための生徒指導に取り組む ②生徒が主体的に、部活動や学校行事・生徒会活動に取り組むことにより、生徒一人一人の母校愛を育む。 ③支援委員会を中心に学年・学科等関係職員の連携を強化し、組織的に教育相談に取り組む。	①「生徒（生活）指導は十分に行われている」という生徒の割合90% ②「学校行事は充実している」という生徒の割合90% ③生徒出席率の推移が安定、向上したか。	①生徒の割合は、91%で達成できた。今年度は、女子生徒のスラックスを制服として追加した。また、セーターとコートの規程見直しを始めた。 ②文化祭の限定公開等、感染症対策を講じながら行事を運営した。 ③長期欠席者増加により欠席数が昨年度の2倍以上となった。特別支援教育研修会を2回実施した。また、教育相談件数は15件であった。	B	生徒指導関係では、今後も時代の進展や学校教育目標を踏まえた校則の点検・見直しを継続する。修学旅行は、感染者が発生場合の対応を踏まえた内容を検討する必要がある。 次年度より支援委員会に各学年主任に入ってもらうことで、支援員やカウンセラーと学年の連携をさらに深めたい。
3	<b>【現状】</b> 地域の教育資源を活用することにより、様々な教育活動が充実してきている。 <b>【課題】</b> 地域社会等と連携を強めながら、取り組みの内容や成果を積極的に情報発信していく必要がある。	コロナ禍に応じた、外部関係機関との連携や、情報発信の方法を工夫・改善する。	①適切な感染症予防のもと外部連携の取り組みを生徒主体で企画・運営し、イベント会場や三科合同課題研究発表会で発表する。 ②オンライン説明会等の新たな方法での情報提供を検討し、春工見学会・地域交流等で中学校の生徒・保護者・教員に本校の魅力を伝える。 ③保護者のニーズに沿った、きめ細やかな情報提供を行う。	①外部連携に関する取組の工夫、改善 ②各科の入学志願者倍率1.1倍以上 ③「本校からの情報提供（お知らせ）は十分に行われている」という保護者の割合90%	①外部連携は、3つのイベントに参加できた。三科合同課題研究発表会は、学科対応で録画視聴となった。 ②12月希望状況は、機械科1.08倍、建築科0.94倍、電気科0.63倍である。トワイライト見学会とオンライン進路相談会を実施できた。 ③保護者の割合90%で達成できた。メール配信システムの変更やホームページの模様替え等、情報発信手段の改善ができた。	B	今後も感染症対策を講じながら、可能な限り外部連携に参加し、生徒の自己肯定感を醸成やコミュニケーション能力の向上に繋げる。 生徒募集行事を検証し、中学3年生の生徒数が減少する中ではあるが、生徒募集に努めたい。 保護者や地域に必要なとされている情報発信を今後も継続する。また、欠席連絡についてICTを活用した方法も検討したい。

学校関係者からの意見・要望・評価等

- ・専門科目の重要性と楽しさ溢れる授業展開に期待したい。それが生徒の予習（自学自習）につながると感じる。
- ・授業が理解できなかった生徒20%に対して、なぜ理解できないのかを検証する必要がある。
- ・生徒の学習意欲が更に向上するように、検討をお願いしたい。
- ・資格取得について、個人ではなくチームとして取り組まれていることに敬意を表したい。
- ・進路指導において、キャリア教育の観点から長期計画（人生）の考えもさらに指導して頂ければ、失敗を恐れず粘り強いタフな人材が育つのではないかと。
- ・先生から生徒へのひと言で、生徒の自立する心が向上することもある。
- ・春工の生徒であれば、校則の改訂についても正しく意見を出せる者が多いと思う。
- ・ブラック校則の存在がマスコミ等で取り上げられている。情報収集し柔軟な対応が求められる。
- ・不登校の生徒が何名か存在するようだが、校内の指導はもとより地域の力を活用して、外部の専門家や関係機関のアドバイスも活用してみたらどうか。
- ・今後の社会状況に対応した方法が、必要になると思う。
- ・課題研究をはじめ地域の教育資源を活用している学校であると感じる。関係企業や近隣の大学を大いに利用した方が良いと思う。あわせて卒業生にも来校頂き、後輩に対しての意識付けを行うことも参考になる。
- ・広報も充実している。情報発信を続けることが重要である。広報誌やHPも生徒や保護者に企画立案してもらい新しい感覚で行うのもよい。